

ばれいしょ(秋作)

月	旬	作型, 主要作業	作業の要点	
7	上	植付	1. 品種 デジマ, ニシユタカ, [シスト抵抗性品種] アイユタカ, さんじゅう丸, アイマサリ	
	中		2. 種いも量 10 ~ 12袋 (200 ~ 240kg / 10a)	
			3. 種いも消毒 留意点は下記参照	
下	4. 土壌消毒 青枯病, そうか病, センチュウ類が発生する圃場では、土壌消毒を行う(下記参照)			
	5. 種いも切断 労力の低減と腐敗防止のため、全粒植えが望ましい 切断する場合は、頂芽が均等に分かれるように切る(1片 35 ~ 40g) 切り口は十分に乾燥させる(腐敗防止)			
8	上		6. 土づくり 完熟した堆肥と土壌改良資材を全面施用し、よく耕耘する(下記参照)	
	中		7. アブラムシ対策 植付時にアブラムシ防除対策として粒剤を施用する。	
			8. 植付 (1) 時期 9月上 ~ 中旬 できるだけ涼しい時期に植えつける。特にアイユタカ・さんじゅう丸・アイマサリは腐敗しやすいので中旬以降を目安とする (2)栽植密度 畦幅 60cm × 株間 20cm 8,300株 / 10a 畦幅 60cm × 株間 25cm 6,600株 / 10a (3) 植付 切り口を下に向けて、覆土はしっかり行う。	
下	9. 施肥 堆肥は、全面施用とし、良く耕耘する。それから1週間ほど後に化成肥料を施し、さらに耕耘する。			
	10. 中耕, 培土 雑草防除のために中耕を行う 倒伏軽減や凍霜害防止のためにも、培土を充分行う(時期は出芽後3週間目を目安に行う)			
9	上		収穫	11. 収穫 いもの皮が剥けないように掘取り、掘取ったいもは、直射日光に当てないように日陰で風乾した後、出荷規格により選別し、出荷する
	中			12. 後片付け 収穫後はほ場及び周辺に野良いもなどの残さが残らないように処理する
		留意事項 1. 土づくり (1) 完熟堆肥の施用 : 500 ~ 1,000kg / 10a (2)緑肥の鋤込み(刈り取り、鋤込みは植付け前に余裕をもって行う) 緑肥による土づくり ・緑肥の種類 : クロタラリア、ヒマワリ、スーダングラスなど ・播種 : 5月上旬 ~ 6月上旬 ・刈り取り・鋤込み : 7月下旬		
下	(3) 作土の確保 耕盤破碎, プラウ耕など			
	(4) 土壌改良資材の利用 土壌分析結果により、pH4.2以下の場合は石灰資材などでpH矯正を行う。 石灰資材 40 ~ 60kg / 10a(そうか病発生圃場については施用量に注意する)			
10	上	2. そうか病の防除対策 (1) 健全種いもの使用 (2) 種いも消毒の実施 未萌芽の種いもを、切断せずに処理する 散布の場合、種いもを床に広げ、均一に濡れるようにする 風通しの良い日陰で、速やかに乾かす 薬剤は指定された用法、用量に従って使用しないと、芽の障害や出芽不良を起こすことがあるので細心の注意をはらう。 薬剤処理したいもは、食用、飼料用に絶対しない		
	中	(3) 土壌消毒の実施 人畜への危害防止と消毒効果を高めるため、必ずポリフィルム等での被覆を実施する 過湿、過乾燥時を避け、土を握ると軽くひび割れする程度の土壌水分時に実施する 地温が低い早朝に実施する ガス抜きは、丁寧に行うとともに、消毒後の深耕は行わない		
		3. シストセンチュウ対策:シストセンチュウの汚染防止のため、圃場間での土による移動をなくす (1) 農機具の洗浄と履き物の履き替え (2) シストセンチュウ抵抗性品種の導入 (3) 植付前の土壌消毒ならびに粒剤処理の実施		
11	上	水質等の環境に優しい肥効調節型肥料や有機肥料の利用に協力をお願いします。	4. 施肥例 (kg / 10a)	
	中			
				下
上	中			
下	中			
上	中			

水質等の環境に優しい肥効調節型肥料や有機肥料の利用に協力をお願いします。

農薬の使用にあたってはラベルをよく確認しましょう

ばれいしょ(早掘りマルチ・春作マルチ)

月 旬		作型, 主要作業		作業の要点																																													
12	上	早掘り	春作	植付	1. 品種 ニシユタカ, デジマ, メークイン, [シスト抵抗性品種] アイマサリ, さんじゅう丸, アイユタカ																																												
	中				2. 種いも量 12 ~ 13袋 (240 ~ 260kg / 10a)																																												
					下	3. 種いも処理 (1) 種いも消毒 未萌芽の種いもを、切断しないで処理する (2) 温蔵浴光 生育促進のため、種いもは植付前 30日程度温蔵浴光する アイユタカは温蔵浴光を控える																																											
1	マルチン グ	植付	4. 土壌消毒 そうか病, 青枯病, センチュウ類が発生する圃場では、土壌消毒を行う																																														
			中		5. 種いも切断 コスト低減と萌芽促進のため、2 ~ 4つに縦切りする (1ヶ重 30 ~ 50g)																																												
					下	6. 植付様式 畦幅 60cm, 株間 20 ~ 25cm アイユタカ(一期作産種いも)は、株間 25cmとする																																											
2	マルチン グ		マルチン グ			7. 植付, 施肥 堆肥は全面施用とし、よく耕耘する 切り口を下にした種いもが隠れる程度に覆土し、その上に化成肥料を施し、さらに覆土する 植付後、地温が低い場合は、萌芽, 生育遅延を起こすことがある																																											
					中	8. 除草剤散布 マルチング前に除草剤を散布する																																											
						下	9. マルチング 透明ポリフィルム 0.02mm, 165cm (800m / 10a) マルチは、降雨後がよく、土に湿り気があるときに行う 萌芽したら、その都度、ポリフィルムを破って芽出しを行う																																										
3	マルチン グ				マルチン グ		10. 霜害対策 霜害が発生した場合、回復をはかるため、メリット青 300倍を 100% / 10a程度散布する																																										
						中	11. 収穫 いもの皮が剥けないようにして掘取り、掘り取ったいもは直射日光に当てないように日陰で 風乾した後、出荷規格により選別し、出荷する さんじゅう丸については、収穫遅れにならないように注意する。(腐敗防止)																																										
				下			1. 浴光催芽の方法 (1) 種いもの伏せ込み 種いもは、選別後 2 ~ 3段に並べる。3段より多く重ねると、下の方のいもの芽が弱くなるので行わない (ト口箱, 麦ワラの上で行う) 催芽時に種いもを切断する場合、全部切り落としてしまわずに、頂部から 3分の2まで切り下げる程度とする。この方法をとると、各切片の芽の揃いが良く、植付時点で容易に切り離すことができる (2) 催芽中の管理 昼間の床内の温度が 25 を超えないようにする。晴れの日には、換気を行ったり、よしずをかけたりする 催芽の途中で 3回ほど上下のいもを入れ替え、萌芽揃いを良くし、腐敗等は取り除く 床内は、できるだけ乾燥するようにし、雨の日には、雨漏りしないように注意する																																										
4	マルチン グ					マルチン グ	2. そうか病の防除対策 (1) 健全いもの使用 (2) 種いも消毒の実施 未萌芽の種いもを、切断せずに処理する 風通しの良い日陰で、速やかに乾かす 薬剤処理した種いもは、絶対に食用, 飼料にしない (3) 土壌消毒の実施 人畜への危害防止と消毒効果を高めるため、必ずポリフィルム等での被覆を実施する 過湿, 過乾燥時を避け、土を握ると軽くひび割れる程度の土壌水分時に実施する 地温が低い早朝に実施する ガス抜きは丁寧にを行うとともに、消毒後の深耕は行わない (4) 適正な土壌pHへの矯正・維持																																										
				中			3. シストセンチュウ対策：シストセンチュウの汚染防止のため、圃場間での土による移動をなくす (1) 農機具の洗浄と履き物の履き替え (2) シストセンチュウ抵抗性品種の導入 (3) 植付前の土壌消毒ならびに粒剤処理の実施																																										
		下					4. 施肥基準：完熟堆肥 500 ~ 1,000kg、苦土石灰40 ~ 80kg施用																																										
5	マルチン グ			マルチン グ			(kg / 10a)																																										
		中					<table><tr><th rowspan="2">例</th><th rowspan="2">肥料名</th><th rowspan="2">保証成分 (N - P - K - Mg)</th><th rowspan="2">元肥</th><th colspan="4">成分量</th></tr><tr><th>N</th><th>P</th><th>K</th><th>Mg</th></tr><tr><td>1</td><td>スーパースター</td><td>13-9-9-1</td><td>180</td><td>23.4</td><td>16.2</td><td>16.2</td><td>1.8</td></tr><tr><td>2</td><td>ダイナミック有機</td><td>12-10-8-1</td><td>180</td><td>21.6</td><td>18.0</td><td>14.4</td><td>1.8</td></tr><tr><td>3</td><td>グリーン400</td><td>14-10-10-2</td><td>160</td><td>22.4</td><td>16.0</td><td>16.0</td><td>3.2</td></tr></table>								例	肥料名	保証成分 (N - P - K - Mg)	元肥	成分量				N	P	K	Mg	1	スーパースター	13-9-9-1	180	23.4	16.2	16.2	1.8	2	ダイナミック有機	12-10-8-1	180	21.6	18.0	14.4	1.8	3	グリーン400	14-10-10-2	160	22.4	16.0	16.0
			例				肥料名	保証成分 (N - P - K - Mg)	元肥	成分量																																							
N	P	K								Mg																																							
1	スーパースター	13-9-9-1	180				23.4	16.2	16.2	1.8																																							
2	ダイナミック有機	12-10-8-1	180		21.6		18.0	14.4	1.8																																								
3	グリーン400	14-10-10-2	160		22.4		16.0	16.0	3.2																																								
5	マルチン グ	マルチン グ	水質等の環境に優しい肥効調節型肥料や有機肥料の利用に協力をお願いします。																																														
			中																																														
下																																																	

農薬の使用にあたってはラベルをよく確認しましょう